

# JR東海労なごや

2019年7月26日 No.1146

JR東海労名古屋地方本部

発行者：荻野隆一

編集者：教宣部

安全を守るのは私たちだけではできない！

## どちらの入信が視やすいですか？

「入換信号機視認性向上に関する申し入れ」

JR東海労名古屋地本申第17号提出

### 運転士の皆さん、今の入換信号機は確認しやすいですか？

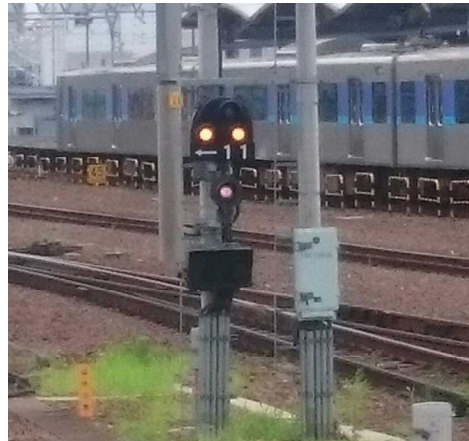
運転士の皆さん、日夜安全運行への努力に敬意を表します。

安全の確保は運転士の注意力のみでは限界があります。信号機の視認性などは大きな問題です。中でも入換信号機は太陽光が反射したり、確認距離が長かったり条件によっては視づらいですよね！他会社では写真のような入信が採用されています。

### JR西日本とJR東海比較



JR西日本



JR東海

写真はJR西日本とJR東海の入換信号機の比較です。停止現示の時、一方が白色灯でなく赤色灯になっています。断然JR西日本の方が見やすいですよ！

東海労名古屋地本は、視認性向上を中心に、運転士の負担軽減を目的に5項目の申しれを行いました。(①明瞭な現示②停止現示の赤色化③移動開始指示灯設置④列車遅延時の対応⑤過度な再教育をしない) JR東海労名古屋地本申第17号

安全に対して投資を躊躇するなどは、あってはならないことです。ましてや、投資額をとてても回収できないといわれている、リニア中央新幹線に巨額投資をしているにも関わらず、重要な安全設備に投資を怠ることはあってはならないことです。

私たち、JR東海労名古屋地本は団体交渉もしくは、業務委員会を開催し誠意ある回答をもとめます。

**設備投資は現場の声を聞くべきだ！**

**安全確保を乗務員にのみ押しつけてはならない**